



# ほっかい

水とふれあい通信

◇発行 者／岩見沢市6条西7丁目 北 海 土 地 改 良 区

TEL (0126) 22-2400 FAX (0126) 22-8012

URLアドレス <http://www.midorinet-hokkai.jp>

◇印 刷／弘文社印刷株式会社 岩見沢市 5 条東11丁目



役職員揃っての 2013 年開幕 (2013.1.7)

## 主 な 内 容

「新春を迎えて」ご挨拶……………	2
平成24年度第1回臨時総代会開催・平成23年度決算 ……	3
平成23年財産状況ほか……………	4～5
平成24年度第1回補正予算……………	6
人事通信ほか……………	7
JICA研修生受け入れ……………	8
域用水機能増進事業……………	9～10
その他……………	11～12

### 改良区の現況

地区面積	33,324ha
組合員数	2,489 人
平成24年4月対比	△17人
平成 25 年 1 月 1 日現在	

# 第 85 号



# 新春を迎えて

北海道土地改良区

理事長 眞野

弘



総じて雪の年末年始であります。ご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこと謹んでお喜びを申し上げます。

さて、一昨年は三一一大震災、未曾有の国難もあって、世相反映の一句句も人間社会の原点とも云える「絆」が強調されましたが、昨年は一転して「金」が清水寺の舞台で揮毫された処であります。勿論、ナデシコジャパン等ロンドンオリンピックでの大活躍によるメダル量産がその理由であります。私共、北海道農業にとっても水稲の一〇七を始め作物全体が概ね嬉しい秋となった処であり正しく金星であります。また加えての十二月の総選挙、「費用対効果」に固執した事業仕分け、行政事業レビュー評価、政策コンテストなどコンクリートから人の理念が三ヶ年の経過の中では政権当初の評判通りには行かなかった。国民の意欲や国家の品格風格を逆に失墜させたことに国民の良識が働いたのではないかと思わせるほど、流れを一変させた第四十八回の衆議院選挙、正しくこれも私的には金星と捉えたいのであります。

政権がどうあれ、取り巻く課題については替わりありません。土地改良当初予算と土地改良関係制度の回復であり、TPP阻止問題であります。私はこの二つの問題の大元は一つであり、食についての価値観と国家の歴史観が本物なのか？偽物なのか？だと思っています。輸出大国アメリカの大統領でさえ国内自給の出来ない国は国際圧力と危険に晒される国である。現職時代のブッシュさんの自給概念であります。

また少し飛躍しますが、日本国家の歴史は西暦を遥かに超えること六六〇年、今年は紀元二六七三年であります。この歴史には瑞穂の国というコメ文化、農耕文化がしっかり基盤になっていて、これを日本人の心と云い替えても間違い無いと確信するのであります。土地改良はこの文化の基礎基盤であり、全国四六〇万鈔の農業国土、この農地を守る役割であります。申し上げるまでもありません。戦後の土地改良法によって基幹部分は国の直轄事業で末端に至るは道営等補助事業等で守り続けられております。勿論、農

家の同意申請と負担行為に因って進められていた唯一の民主的公共事業なのであります。前政権の様にこの事業の国費部分の大幅削減は国土の否定であり、国家の食と文化の大切な土俵、フィールドの否定でもあります。国民の心を育てている社会モラルや倫理観の醸成、癒しの景観など、有形無形の多面的機能までもが農業農村整備事業の削減とTPP参加には大きく否定する意味合いの何物でも無い。私は確信をするものであります。新政権には、より強靱な思いでTPP阻止行動は続けて参りたいと考える処であります。

全国水土里ネットワーク野中会長の要請もあって、今年九月、全国土地改良大会が札幌で開催することになりました。三一一による東日本の復興と低迷している土地改良の再生再興の為に、北海道の熱意と底力を発揮したい。土地連を中心に準備を急いでいる処であります。今年は巳年、脱皮とうなぎ昇りの蛇にあやかって、改良区の役割をしっかりと果たして参りたいと誓う次第であります。役員皆様を始め組合員のご健勝ご清福をご記念申し上げます。新年おめでとございました。





## 平成24年度 第1回 臨時総代会開催

平成24年度第1回臨時総代会が、8月23日岩見沢平安閣において総代100名の出席を得て開催され、議長に今田邦彦氏（美唄市・第1区）、議事録記名人に菊地一志氏（美唄市・第1区）、永桶建弘氏（岩見沢市・第3区）を各々選出し、報告2件、議案17件について慎重審議の結果、原案通り承認決定されました。

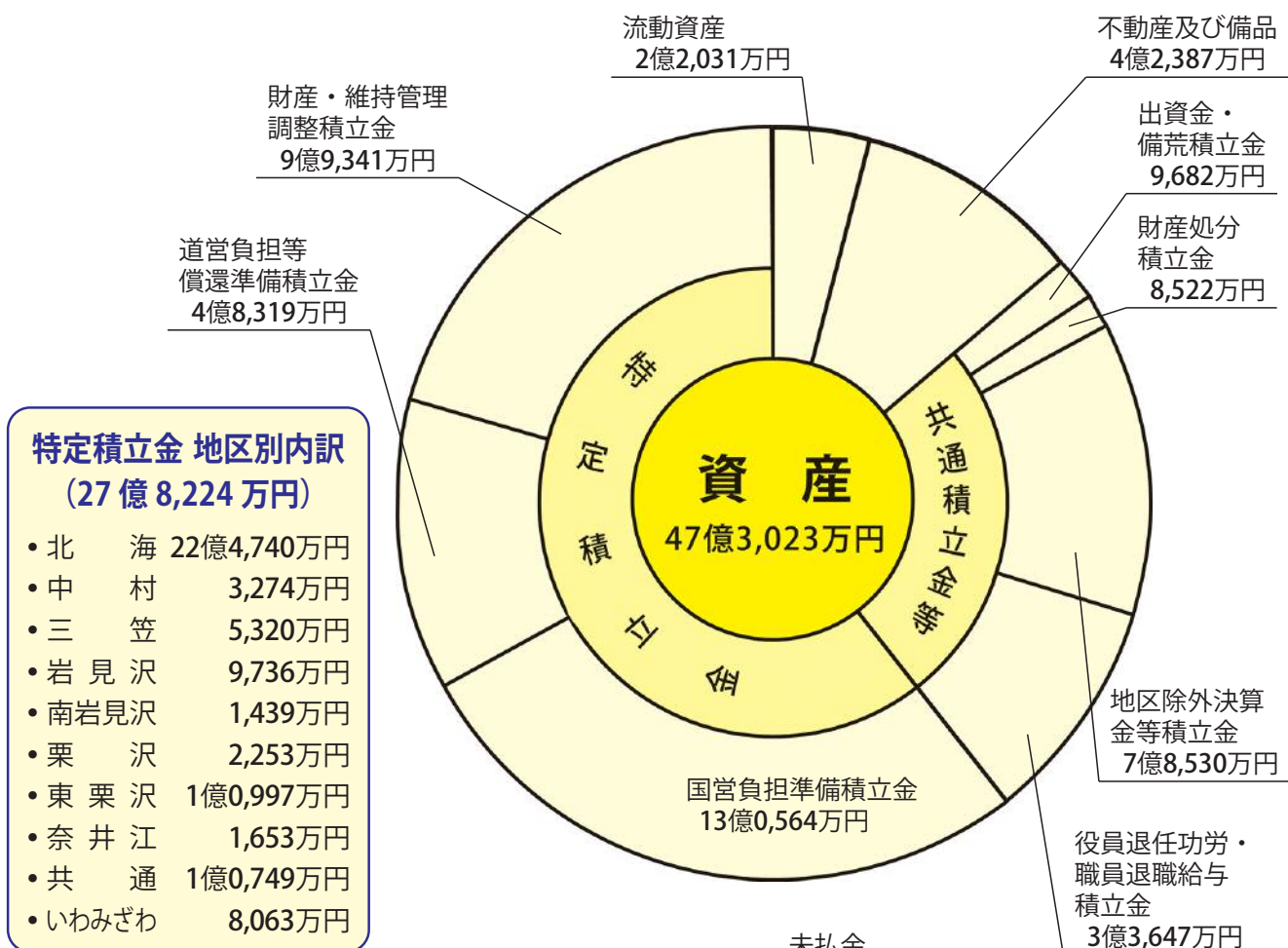
## 平成23年度 一般会計決算書報告

収入決算総額 4,267,654,531 円  
支出決算総額 4,099,133,478 円  
差引残高 168,521,053 円（翌年度へ繰越）

翌年度繰越金 内訳 { 一般繰越額 127,611,589 円  
決済金等繰越額 40,909,464 円

収 入			支 出		
款	予 算 額	説 明	款	予 算 額	説 明
賦 課 金	2,051,053,250	経常賦課金 1,220,780,447 特別賦課金 808,713,603 事業賦課金 21,559,200	一 般	723,369,750	報酬 36,406,038 給料 179,535,520 職員手当 137,347,042 退任給与金 4,110,000 退職給与金 141,079,605 賃金 33,877,762 法定福利費 81,004,734 費用弁償 6,868,104 旅費 8,466,840 交際費 1,313,45 需用費 44,596,825 使用料及び賃借料 3,829,443 備品購入費 5,304,980 備品管理費 14,564,171 宮繕費 9,751,341 手数料 11,325,448 会議費 3,309,442 総代選挙費 679,000
使 用 料	11,712,827	契約使用料 4,089,577 許可使用料 7,623,250	管 理 費		
補 助 金 及 び 助 成 金	772,525,360	補助金 74,336,592 市町村等助成金 536,962,768 交付金 161,226,000	営 造 物	852,398,802	頭首工維持費 16,284,970 貯水池維持費 14,354,247 溝路維持費 114,922,462 揚水機維持費 378,175,547 下部交付金・助成金 60,089,774 維持管理適正化事業費 125,580,000 施設改善対策事業 57,435,000 抛入金 61,298,120 管理諸費 24,258,682
財産収入	22,068,526	預金利子 8,312,957 配当金 103,700 財産貸付収入 1,985,280 財産売却収入 11,666,589	管 理 費		
受託及び 補 償 金	81,211,824	受託金 78,303,064 補償金 2,908,760	土 地 改 良 事 業 費	212,720,859	団体営事業費 131,508,350 補償工事費 2,908,760 受託事業費 78,303,749
繰 入 金	426,198,037	基本財産繰入金 40,165 積立金繰入金 426,157,872	諸 税 及 び 負 担 金	469,116,393	諸税 3,316,100 道営分担金 461,052,193 その他事業負担金 4,748,100
借 入 金	555,292,000	農林漁業資金借入金 469,998,000 長期借入金 85,294,000	繰 出 金	358,994,691	備荒積立 1,216,011 財産処分積立 13,257,954 地区除外決済金等積立 135,724,969 役員退任功労積立 1,980,162 退職給与積立 71,091,129 国営負担積 21,268,336 道営負担等償還準備積立 97,182,683 財産・維持管理調整積立 17,273,447
諸 収 入	178,163,864	預金利子 87,064 過怠金 43,287 過年度収入 3,536,710 雑 入 6,740,423 加入金 57,980 繰上償還金 82,757,406 決済金 84,940,994	償 還 金	1,457,102,460	農林漁業資金償還金 515,255,496 長期借入金償還金 726,932,060 繰上償還金 214,914,904
換 地 費	0		諸 支 出 金	25,430,523	財産取得費 24,312 厚生管理費 1,768,030 一時借入金利子 316,541 事業推進費 775,198 団体負担金 4,160,880 諸費 18,385,562
繰 越 金	169,428,843	前年度繰越金 169,428,843	換 地 費	0	
			予 備 費	0	
収入合計	4,267,654,531		支出合計	4,099,133,478	

# 平成23年度 財産状況 (平成24年5月31日現在)



# 監 査 報 告 書

平成 23 年度決算監査を執行したので、次の通り報告いたします。

## 記

1. 監査をした年月日 平成 24 年 7 月 3, 4, 5, 6 日 4 日間
2. 対象とした年月日 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日
3. 監 査 の 結 果

### 1) 業務に関する事項

#### イ. 運営に関する状況

定款及び諸規定の整備状況、又（総代会、理事会、各委員会）の開催においても適切に運営をされておりその他の事項についても良好だと認めます。

#### ロ. 事業に関する状況

各事業が当初計画通り施行されておりさらに施設の維持管理も適正であると思われます。又工事に伴う入札、請負契約等事務手続き、関係書類の整備も良好と認めます。

### 2) 財務に関する事項

#### イ. 会計に関する状況

予算に対して順調に運営をされており、賦課徴収も役職員の努力の結果が見受けられます。又借入金等の使途、償還等も適正に行われていると認めます。

#### ロ. 経理に関する状況

金銭出納、残高の一致状況等経理全般に涉って適正に行われており良好とされます。又財産台帳の整備、各金融機関の通帳等の管理も適正と確認をいたしました。

以上全般を通して良好と認めます。

平成 24 年 7 月 6 日

北海土地改良区 総括監事 山 口 勝 利 ㊟

筆頭監事 梶 俊 忠 ㊟

監 事 林 孝 友 ㊟

監 事 白 倉 敏 美 ㊟

監 事 村 上 敏 文 ㊟

# 平成24年度 第1回 補正予算の概要

一般会計 149,000 千円 追加補正

平成 24 年 8 月 23 日開催の第 1 回臨時総代会において、**平成 23 年度決算からの繰越金、負担金等**を主たる要因として、149,000 千円を追加し、総額 4,414,500 千円とする第 1 回補正予算を可決した。

## 平成 24 年度 一般会計 第 1 回 補正予算表

### 収 入

(単位：千円)

科 目	補正前の額	補 正 額	計	説 明
賦 課 金	2,122,210	2,530	2,124,740	事業賦課金 2,530
使 用 料	11,416	0	11,416	
補助金及び助成金	535,976	7,307	543,283	補助金 7,307
財 産 収 入	9,477	23	9,500	財産売却収入 23
受託及び補償費	45,394	0	45,394	
繰 入 金	353,688	35,716	389,404	基本財産繰入金 24,547 積立金繰入金 11,169
借 入 金	817,427	14,321	831,748	農林漁業資金借入金 12,550 長期借入金 1,771
諸 収 入	289,910	581	290,491	過年度収入 30 雑入 △ 120 決済金 671
換 地 費	2	0	2	
繰 越 金	80,000	88,522	168,522	前年度繰越金 88,522
収 入 合 計	4,265,500	149,000	4,414,500	

### 支 出

(単位：千円)

科 目	補正前の額	補 正 額	計	説 明
一 般 管 理 費	703,479	5,150	708,629	営繕費 5,150
営 造 物 管 理 費	877,656	28,932	906,588	頭首工維持費 150 貯水池維持費 4,210 溝路維持費 8,178 揚水機維持費 9,857 助成金 6,537
土地改良事業費	143,764	14,013	157,777	団体営事業費 14,013
諸税及び負担金	772,444	9,539	781,983	道営分担金 9,497 その他事業負担金 42
繰 出 金	267,965	86,863	354,828	財産繰出金 17 積立金繰出金 75,749 特定積立金繰出金 11,097
償 還 金	1,452,101	3,315	1,455,416	転用繰上償還金 2,973 繰上償還金 342
諸 支 出 金	40,089	1,308	41,397	返還金 6 雑出 1,302
換 地 費	2	0	2	
予 備 費	8,000	△ 120	7,880	予備費△ 120
支 出 合 計	4,315,000	173,000	4,450,000	

## 人事通信

## 職員人事異動

## 十月一日付発令

## ▼総務部 総務課 主事

佐藤 駿

(総務部 総務課 主事補)

## ▼技術部 美唄事業所 技師

奥田 祥吾

(技術部 美唄事業所 技師補)

## ▼技術部 岩見沢事業所 技師

長谷川 将也

(技術部 岩見沢事業所 技師補)

## 退職

## ▼十二月三十一日付 (臨時職員)

女鹿 愛子 (総務部 総務課)



## おくやみ

当区関係者において、左記の方々をご逝去されました。

ここに、生前中当区業務運営にご尽力賜りました事に深く感謝申し上げ謹んでご冥福をお祈り致します。



元理事長

清水 秋隆 氏

ご逝去

勲五等瑞宝章、元理事長清水秋隆氏、平成24年10月16日ご逝去されました。

氏は、昭和40年9月理事に選任され、昭和60年から理事長に就任し平成5年勇退。当区の発展に、ご尽力いただきましたご功績に対し感謝申し上げ心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## ◎元役員等

作井 信之 氏 (岩見沢市)

旧岩見沢土地改良区 総括監事

(昭和50年2月～昭和58年2月)

平成24年6月16日 逝去

段坂 英夫 氏 (岩見沢市)

旧東栗沢土地改良区 理事

平成24年6月26日 逝去

武田 豊治 氏 (南幌町)

北海道土地改良区 理事

(昭和60年9月～平成元年9月)

平成24年9月5日 逝去

岩田 秀夫 氏 (岩見沢市)

旧岩見沢土地改良区 理事長代理

(昭和38年9月～昭和47年3月)

平成24年9月10日 逝去

濱本 良次 氏 (奈井江町)

北海道土地改良区 監事

(平成2年9月～平成5年7月)

平成24年9月10日 逝去

## ◎組合員

村井 達氏 (美唄市)

豊葦支線組合

平成24年7月12日 逝去

河野 幸吉 氏 (美唄市)

光珠内揚水機支線組合

平成24年11月13日 逝去

喜多 諭氏 (岩見沢市)

小西自協支線組合

平成24年11月14日 逝去

大辻 修氏 (奈井江町)

奈井江南支線組合

平成24年11月27日 逝去





## JICA(独立行政法人国際協力機構)

## 地域別研修「アジア地域農民参加型用水管理システム ベトナム」研修生の受入

当区では、一昨年と昨年に引き続きまして、JICA研修生（ベトナム）10名を6月11日から7月26日迄の1ヶ月半に亘りまして日本の土地改良区で行われている農民参加型用水管理システムを習得に。

空知総合振興局等への表敬訪問に始まり当区の職員が土地改良区の組織運営・管理組合の役割・維持管理方法等を説明し、北海頭首工等の当区の水利施設の現地視察や北海道大学等での講義、そして道外（滋賀県・京都府）の土地改良区への視察（日野川流域土地改良区・湖北土地改良区・巨椋池土地改良区）や近畿農政局訪問も行いました。

10名の研修員はそれぞれ自国で農業用水路を管理する公的機関に勤められている方々で、今回の研修の成果を自国の農業用水管理の発展に資する事を願っております。

最後に今回の研修生受入にご協力を頂きました関係機関の皆様のお礼を申し上げます。



「空知総合振興局への表敬訪問の様子」



「研修修了式後の記念写真」

## 面積が変わったらすぐ手続き

農地が減ったり増えたりした時や、耕作者が変わった時はすぐ土地改良区に届出（名義及び地目変更又は地区除外の手続き）をして下さい。

## ※ 賦課金を滞納した土地の取得にはご注意を！

滞納している土地を購入すると、取得された方がその土地の滞納金を支払うことになります。（土地改良法 42 条：権利義務の承認）権利義務の承認とは、土地に有した事業に関する権利（水使用）と義務（賦課金納入）を引き継ぐことです。従って、購入する際に土地代を決める場合は事前に当改良区に滞納の有無を必ず確認して下さい。

届出がない場合は、そのまま賦課されますので、農業委員会、農業協同組合に手続きを行った際は、必ず土地改良区にも届出をお願い致します。

尚、いずれも農業委員会の書面、分筆図等の書類と印鑑を持参の上、届出をして下さい。

（変更の手続きは、賦課調整課、各事業所へ）



# 第7回 北海幹線用水路ウォーキング

## 過去最多の313名が参加

7月29日(日)第7回目の北海幹線用水路ウォーキングが美唄市光珠内町の光珠内調整池管理棟事務所を会場に開催されました。

今年は猛暑の中、10kmコース85名、7kmコースと3kmコースそれぞれ114名ずつ、合わせて313名で、年齢は8ヶ月の子供から83歳の人迄が参加されました。



開会式前の会場風景



ウォーキングのスタート



子供達はドジョウすくいに夢中



調整池沿いを歩く参加者



パネル展示と啓発資料を展示



農産物売り場も盛況

主催：北海土地改良区

共催：岩見沢農業事務所・空知森林管理署・空知総合振興局  
後援：美唄市、J Aみねのぶ・疏水ほっかい愛護連絡協議会



# 平成24年度のソフト活動

## 植樹活動

南幌町 平成 24 年 6 月 6 日

本年度も北海道電力(株)の苗木提供で南幌町北海幹線用水路敷地にエゾヤマザクラ 100 本を植樹南幌緑町町内会、北電(株)、NPO ふらっと南幌他、関係機関団体約 100 名が参加



## 施設見学会



砂川市郷土研究会



南富良野教育委員会



空知本所農業改良普及推進協議会



江別歴史を伝える集い



## 冬の大雪に続き秋はゲリラ豪雨発生

昨年 9 月 11 日夜から岩見沢市を局地的な激しい雨が襲いました。この大雨により南利根別川の一部が氾濫し道路など広い範囲で冠水。周辺 3672 世帯約 7900 人に対して避難勧告が出され、住民がボートで救助される映像が報道番組等で映し出されました。午前 10 時までの 24 時間降水量は 9 月の観測史上最大となる 116<sup>ミ</sup>。冬の新記録に続き秋にも観測史上最大を記録する事態となりました。



またゲリラ豪雨は当区施設にも爪痕を残しました。北海幹線（南幌町）外 7 か所でロングトラフの浮上や抱土流出等の被害が発生。被害総額は 8 か所合計 44,455 千円となりました。

大雪に大雨……昨年は自然災害に悩まされる 1 年でした。今年は同様のことが起きない様、願うばかりです。



北海幹線（南幌）RC フリューム浮上状況



北海幹線（南幌）浮上による目地離脱状況



由良 1 支線抱土流出状況



上志文 10 の 1 支線分派抱土流出状況



## 大会旗13年ぶりに北の大地へ

第 35 回全国土地改良大会・沖縄大会が 11 月 21 日開催されました。沖縄県の本土復帰 40 周年という記念すべき年での開催となります。同大会は、今年 3 月に閣議決定した新たな「土地改良長期計画」の基本理念である「食を支える水と土の再生・創造」の実現に向け、農村の持つ魅力と資源の重要性や、これを有効活用する農業農村整備事業の役割を、また、沖縄県農業・農村の状況を広く国民にアピールする大会となった。

なお大会において来年度の第 36 回大会は平成 25 年 9 月 11 日に北海道で行うと決定がなされ当区の眞野理事長が北海道土地連会長として大会旗の引き継ぎを受け、その後挨拶においてそのテーマを「水土里かがやく北の大地 明日を担う土地改良」と発表された。大会旗が津軽海峡を渡るのは 13 年ぶり。沖縄から実に 2244km の旅となります。



## 北海幹線ブーム到来？

毎週土曜日夕方 5 時から HBC で放映されている『あぐり王国北海道』。昨年 8 月 11 日に日本最長の農業用水路として北海幹線が紹介されました。森崎さんをはじめとする一行は赤平頭首工を見学してから水を追いかけて南幌へ。30 分に亘って北海幹線の役割をご紹介していただきました。



また、JR 北海道が発行している情報誌『JR Hokkaido』6 月号でも『米どころ石狩平野を造った仰天発想』と題して北海幹線をご紹介していただきました。北海幹線……いま密かにブームきてます。

